

世帯業態別食材料費

昭和41年度の食材料費を業態別にみると非農家世帯の食材料費は226.06円であり、農家世帯の174.81円に比べてかなり上回っている。

次に世帯業態を細分した結果についてみると農家世帯では常用勤労者のいる農家世帯が178.34円で最も高く、次いで、兼業農家の176.50円、専業農家世帯171.21円となっている。

また、非農家世帯については、自営業世帯が239.89円で全業態中で最も高く、次いで常用勤労者世帯が227.52円、最低は日雇労働者世帯の175.74円となっている。

なお、穀類、動物性食品、その他副食品の別に構成比をみると図-23のとおりである。

図-23 食材料費の構成比

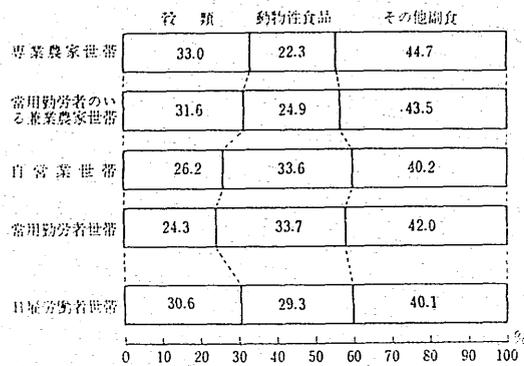
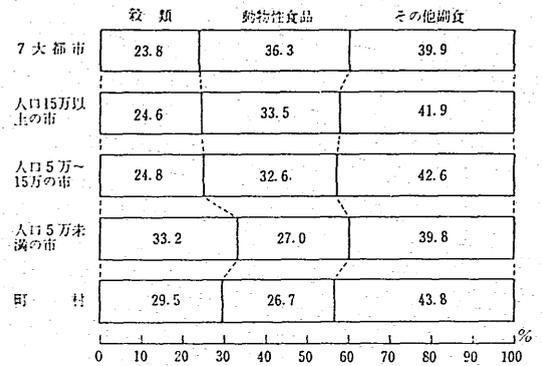


図-24 食材料費の構成比



3. 市郡別食材料費

市郡別の1人1日当り食材料費は、7大都市が250.07円で最も高く、次いで人口15万以上の市の234.01円、最低は町村の185.14円となっている。また、構成比をみると図-24のとおりである。

E 食生活の状況

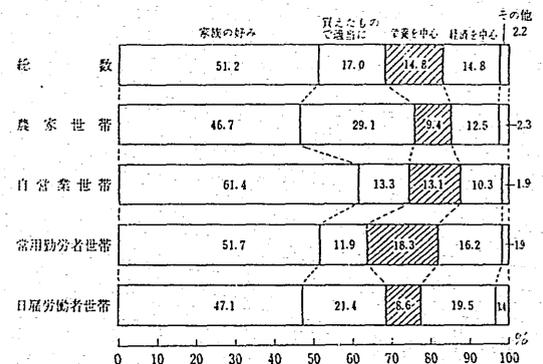
昭和41年度の国民栄養調査は、厚生省生活総合調査の栄養、食生活に関する専門調査として行なったのであるが、その結果、食生活に関して次のような結果が得られた。

1. 献立の作成条件

各世帯の炊事担当者に献立をつくるときにまず最初に考慮することはどういうことであるかをたずねたところ図-25に示すとおり、過半数の世帯が「家族の好みを中心とする」(以下「好み」という)となっており、「買ったもので適当に作る」(以下「適当に」という)が17%、「栄養を中心とする」(以下「栄養」という)と「経済(予算)を中心とする」(以下「経済」という)がそれぞれ14.8%を占めている。

世帯業態別には、いずれの世帯業態も「好み」がもっとも多いが、農家世帯では「適当に」が他世帯に比べて多く「栄養」が少なく、自営業者世帯では「好み」が圧倒的に多く「経済」が少な

図-25 献立の作成条件



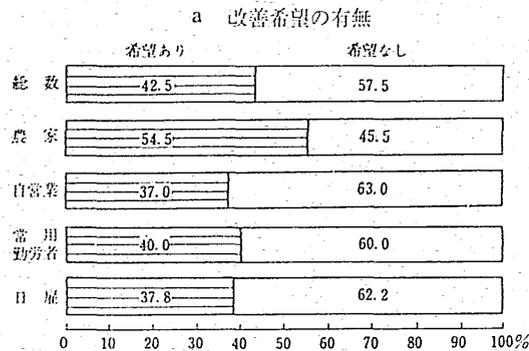
(44)

い。また、常用勤労者世帯では「栄養」が比較的多く、「適当に」が相対的に少ない。常用勤労者世帯のこの傾向は、勤務先の規模が大きくなるにしたがい顕著となっている。日雇労働者世帯、その他の世帯では「経済」「適当に」が比較的多く、世帯業態ごとに献立条件の差異を極めて明らかにしている。

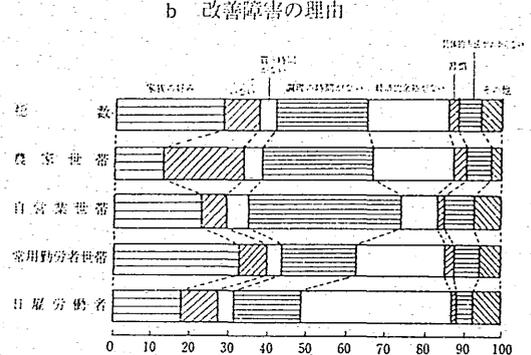
2. 食事内容の改善希望とその障害理由

次にふだんの食事について、献立・調理方法など食事内容を改善したいと考えているかどうか、また、改善したいと考えている人の場合、一番困っているのはどういうことかについてたずねたところ、図一26、27に示すような結果が得られた。

図一26 食事内容の改善希望とその障害理由



図一27 食事内容の改善希望とその障害理由



全世界帯の43%は、現在の食事内容について改善したいと考えている。しかし、改善を考えている世帯も、その28%は「家族の好みや偏食が多い」という理由で、23%は「忙しくて調理の時間がない」、20%は「経済的に余裕がない」、7%は「改善する具体的な方法がわからない」を理由として改善の障害を訴えている。世帯業態別にみると、農家世帯では改善を考えている世帯が、55%と半数をこえて多く、その障害理由も「忙しくて調理の時間がない」がもっとも多く、特に専業農家世帯でその訴えが多い。また、「使いたい食品を近くで売っていない」訴えも他世帯に比べて多く、その割合は常用勤労者のいる兼業農家世帯で特に高い。自営業者世帯、常用勤労者世帯では改善を希望しているものは少なく、障害理由も「家族の好みや偏食が多い」とするものが多くなっている。

3. 米麦使用量について

主食としての米麦使用量（ただし加工品は除く）についてみると、米はいぜん主食の中心であり、約4

表一16の2

米麦使用量別世帯百分率（世帯業態別）

単位=%

使用量	全国	専業農家	兼業農家	自営業者	常用勤労者	その他
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
140g(1合)未満	2.7	1.0	0.6	3.6	2.8	5.8
140g以上280g(2合)未満	15.3	8.3	7.0	15.6	19.4	12.6
280g " 420g(3合) "	43.0	45.9	44.4	43.1	43.1	35.9
420g " 560g(4合) "	27.9	34.9	38.8	26.5	23.8	27.6
560g " 700g(5合) "	6.8	7.7	7.0	7.4	5.6	11.3
700g " 840g(6合) "	2.1	1.6	1.1	2.0	2.3	3.7
840g(6合)以上	2.3	0.8	1.0	1.9	3.0	3.0

表-16の3

米麦使用量別世帯百分率(市郡別)

単位=%

使 用 量	全 国	市 郡 部				郡 部 (町 村)
		7大都市	人口15万 以上の市	人口5万以上 15万未満の市	人口5万 未満の市	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
140g(1合)未満	2.7	4.1	2.5	3.4	2.0	1.8
140g以上280g(2合)未満	15.3	24.2	15.3	16.4	11.0	10.4
280g〃420g(3合)〃	43.0	41.1	45.3	42.1	39.1	44.0
420g〃560g(4合)〃	27.9	20.8	25.9	26.0	35.4	32.3
560g〃700g(5合)〃	6.8	5.2	6.0	6.8	8.6	7.6
700g〃840g(6合)〃	2.1	1.5	2.5	2.4	2.1	2.0
840g(6合)以上	2.3	3.0	2.3	2.9	1.8	1.8

割の世帯では、1人1日当たり約280g～420gを食べている。

世帯業態別あるいは市郡別にみると表-16の2、3のとおりであり、これらの表を総合してみると、いずれの場合も米麦使用量は、ほぼ280g(2合)～420g(3合)のところに集中していることがわかる。

また、摂取食品の重量構成比をみると表-17のとおり、米の使用量はどの世帯でも全食品使用量の25%

表-17

食品群使用重量構成比(世帯業態別)

単位=%

摂取食品群		摂取全食品	動物性食品	植物性食品	米(再掲)
世帯業態					
全	国	100.00	16.70	83.30	25.95
農	家	100.00	12.64	87.36	29.69
自	営	100.00	18.40	81.60	24.94
常	用	100.00	19.02	80.98	23.43
日	雇	100.00	15.38	84.63	29.74
そ	の	100.00	17.35	82.65	25.73

表-18

外食率別世帯百分率(世帯業態別)

単位=%

	全 国	専 業 農 家	兼 業 農 家	自 営 業 者	常 用 勤 労 者	そ の 他
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
外食率15%未満	45.4	72.2	59.4	49.9	32.6	58.2
10%以上20%未満	29.8	21.7	30.4	28.6	33.4	20.3
20%〃30%〃	14.4	4.3	7.3	13.7	19.5	10.0
30%〃40%〃	5.6	1.3	2.1	4.5	7.9	4.3
40%〃50%〃	2.0	0.3	0.5	2.1	2.7	2.6
50%〃60%〃	1.1	0.1	0.1	0.6	1.6	1.5
60%〃70%〃	0.8	0.1	0.1	0.3	1.1	1.6
70%以上	0.9	0.1	0.1	0.3	1.2	1.6

前後になっており、世帯業態、市郡などに影響されることが少ないことが明らかであり、これは、わが国においては、いまだ米食が食生活の中心であることを示しているものといえよう。

4. 外食の状況

外食については、朝3%、昼29%、夕8%であり、男女別にみると朝、昼、夕いずれも男の外食率が高くなっている。

世帯業態別に外食率をみると常用勤労者世帯、自営業者世帯に外食が多く、市郡別では大都市ほど外食率が高くなっている。

表一十九

外食率別世帯百分率(市郡別)

単位=%

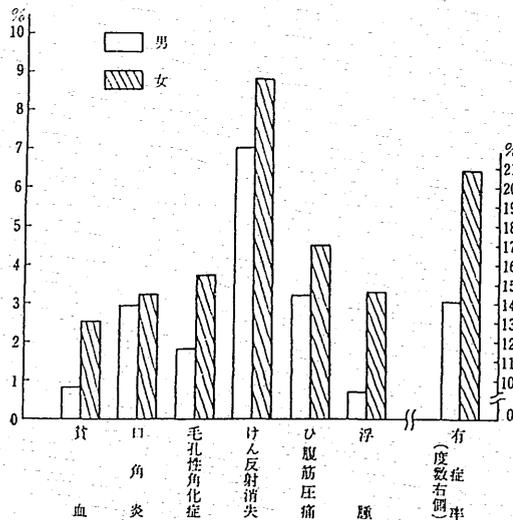
	全 国	市 部				郡 部 (町 村)
		7 大都市	人口15万 以上の市	人口5万以上 15万未満の市	人口5万 未満の市	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
外食率10%未満	45.4	29.1	37.7	42.7	56.0	59.3
10%以上20%未満	29.8	33.7	32.6	30.8	25.6	26.3
20% * 30% *	14.4	21.6	17.1	14.2	11.5	9.1
30% * 40% *	5.6	8.7	6.7	5.8	4.2	3.1
40% * 50% *	2.0	2.9	2.6	2.7	1.1	1.0
50% * 60% *	1.1	1.7	1.2	1.1	0.8	0.6
60% * 70% *	0.8	0.9	1.0	1.3	0.3	0.4
70% 以上	0.9	1.3	1.0	1.5	0.5	0.3

F 身体の状況

1. 身体症候の発現

昭和41年度における国民の栄養欠陥に関係があると考えられる身体症候の発現率(有症者の割合)は17.8%である。

図一28 性別、身体症候発現率(全国平均)



図一29 身体症候発現率年次推移(全国平均)

